

第 49 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会

OS-33

札幌 2025.8.1-8.3

不妊治療専門クリニックにおける出生前検査に関する遺伝カウンセリング

長滝谷芳恵¹、庵前美智子²、小林亮太³、浅井淑子¹、井上朋子¹

中岡義晴²、福田愛作³、森本義晴¹

1 医療法人三慧会 HORACグランフロント大阪クリニック

2 医療法人三慧会 IVFなんばクリニック

3 医療法人三慧会 IVF大阪クリニック

【背景】

出生前検査認証制度等運営委員会が 2022 年に発表した『NIPT 等出生前検査に関する情報提供及び施設（医療機関・検査分析機関）認証の指針』では、出生前検査に関して、妊婦等に対し適切な情報提供を行うべきであると明文化された。当院は出生前検査の実施施設ではないが、指針に基づき、出生前検査に関する遺伝カウンセリング（GC）を実施しており、その件数は増加している。そこで、不妊治療によって妊娠した患者の出生前検査に対する意識調査と初期対応施設としての GC の課題抽出を目的に、アンケートを実施したので報告する。

【対象と方法】

妊娠 4 週～9 週までに出生前検査についての GC を受けた患者を対象としアンケートを実施した。期間は 2024 年 10 月～2025 年 3 月までとした。なお本研究は、施設内倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

回答者の妻平均年齢は 36.3 ± 4.7 歳。出生前検査を意識した時期に関する質問では「妊娠前から」と回答した患者が多かった（20/23、90.0%）。意識したきっかけ（複数回答可）は「妊娠の年齢が気になったから」が一番多かった。GCを受けた後に出生前検査についての考えに変化があったと答えた患者が60.9%（14/23）にみられた。

【結論】

NIPTコンソーシアムの報告において、受けた理由の大多数が高年妊娠であったが、当院患者の回答においても同様であった。インターネット上では出生前検査に関する情報があふれており、整理がついていない患者が多くみられる。GCで正確な情報を提供し、質問に答えることで、頭の中が整理され、GC後の考えの変化につながったのではないかと考えられた。またGC後の感想等（自由記載）においては「受けてよかった」といった肯定的な内容がほとんどを占め、初期対応施設でのGCは、出生前検査について悩む夫婦の意思決定支援につながると思われた。